

[全体総括]

今村奈良臣 (東京大学名誉教授・JA-IT 研究会代表委員)

2 日間で、流通変化と販売路線の改革をどうするかということをめぐる、大変いい報告、最先端の報告がなされたと思う。

JA 富里市と他の JA とはなぜ違うかというヒントを言っておくと、組合員は、皆ほとんど戦後に開拓入植した次三男集団で、その上に畑作地帯で商品作物を作ってきたという点にある。新しい時代の農政はボトムアップ路線が求められている。JA 富里市はずっとボトムアップ路線で、新しい路線を自らの手で作ってきた。

このような JA 富里市と他の JA との格差が拡大している。稲作地帯で言えば、水田農業は米、麦、大豆を作っても、水田に入っているのは年間 60 日が限度といえる。あとの 200~250 日くらいが実は一番儲かるところになる。しかし、それに対する動きが鈍い。どういうふうな 200~250 日で金を生むものを作るのかということはこの JA-IT 研究会で議論してきた。ただ作るだけでなく、加工・販売する路

線をどう作り上げていくかということが大きい課題だといえる。

もう 1 つ提案しておきたいのは、大豆の本作化ということである。統計を見ていると、アメリカや中国ではいずれ遺伝子組み換え (GM) 大豆が主となるだろう。そういう意味では GM 大豆でないのは日本くらいになるだろう。日本の消費者は GM 大豆に対するアレルギーが強い。そのため、せめて納豆、豆腐、豆乳くらいは遺伝子組み換えでない大豆でいきたい。これは売れ筋になる。ただし、そのためには 6 次産業化を進めて、生産、流通、加工、販売を含めて本当に考えてもらいたいと思っている。そういうことを通して、消費者への説得力を高め、あるいは消費者に日本の農業の尊さに目を向けてもらいたい。

この 2 日間のトップレベルの議論を糧にして、自分たちのところでどうしていくかということ議論し、新しい路線を考え出してほしい。

